

くらし

## 山陰から世界へ…出雲ピクチャーズ③

錦織監督

映画の現場から



●●33

皆さんは1年で何本くらい映画をご覧になっていらっしゃるでしょうか？

いきなりのぶしつけな質問をお許しいただきたい。報道では近年映画人口が増えていることから、日本映画界の活況が伝えられている。私も行く先々で「日本映画、最近元気でですね」と声をかけていただく。間違っていないが、実態は喜んでばかりもいられないのが現状だ。

実は、映画館で映画を見る人の実数は急激に減少しているといえる。映画館で見る人は何度も見に行ってくれているのだが、あらゆる世代が映画館に戻ってきているとはいえないのが実態。若年層を中心に、アニメや子供向け作品に集中し、テレビで大量宣伝される人気コミッ

## 足運んでこそ分かる価値

ク(漫画)原作の有名映画や話題性のある作品に、観客が集中して数字を押し上げている。残念なことに何年も映画館に足を運んだことがない人が大多数だ。

映画草創期、画に音がなくサウンドと呼ばれる映画は、弁

士が説明しながら上映されていた。そのうち音が付きトーカーと呼ばれる活動写真は、画面にカラーが付き総天然色映画として多くの観客を喜ばせた。やがて音はモノクロからステレオになり格段に進歩。現在はサラウンド(皿うごんではない)システムが開発され、劇場全体に立体的な音が響き渡る。

テレビが茶の間の主役になっても映画はしばらくの間娯楽の王様の地位を守っていたが、現在はどうかだろうか。テレビがハイビジョンになり液晶大画面モニターで、家において

細な音が、映画の面白さを増幅してくれる。むしろアクション映画などの大音響の映画より、静かな映画でその進歩が感じられると思う。

出雲ピクチャーズは、ご年配の方々が見られる映画や、時流に流されないジワ〜と感動が押し寄せる作品を、見たいという人の声に心えようということも誕生のきっかけになっている。

テレビが茶の間の主役になっても映画はしばらくの間娯楽の王様の地位を守っていたが、現在はどうかだろうか。テレビがハイビジョンになり液晶大画面モニターで、家において

も映画館並みの迫力で作品が楽しめる時代になった。それでも、私は映画館をお薦めしたい。監督だからではない。テレビが進歩しているように映画技術も進歩している。家庭では味わえない迫力や繊



隠岐は世界レベル。一生に一度は訪れたい

今年世界シオパーク候補地として注目される隠岐を、今の時代に撮らせていただけたいことを誇りに思う。隠岐は今が旬だ、と声を大にして言いたい。隠岐、映画館とどちらにも、ぜひ一度足を運んでみてほしい。

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載